

## 第十二章

# 実録洗脳解除セミナー

※お断り・この章の内容は二〇〇九年十二月末に行われたセミナーです。その場の臨場感を残すため、実際の話し言葉になるべく近い文章となっています。講師は天野雲海氏、受講者は統一教会をやめたが、教えが抜け切らない元信者Mさんです。

### ■カルト教団の教えで頭に残っている内容は？

【講師】「今現在、統一教会的な教えで、頭に残っていて『これは真実でないかな？』という点は何ですか？」

【Mさん】「創造神がいることです」

【講師】「創造神、宇宙をつくった主のことですね。その主はどういう存在だと今現在思っていますか？」

【Mさん】「今はとにかく緻密ちみつという感じですね。それ以外の教えというのは『わからない』というのが正直な感想です。親とか言ってるけど、そうかもしれないけど、そうでないかもと思います」

【講師】「その神に感情的な面、喜怒哀楽はあると思いますか？感情を持った神という教えは？」

【Mさん】「喜怒哀楽はあるが、もつと理性的な感じがします。感情も理性でコントロールできる存在。感情でいろいろ言ったり行動する神ではない気がしています」

【講師】「統一教会的な教えというのは、あくまでも感情重視でしょ。喜怒哀楽の神と教えます。泣いたり叫んだり笑ったり、そういう神だという教えですね。これは自分の経験の中では感情よりも理性のほうが強いんじゃないかと思っっているわけですね」

【Mさん】「今はそうですね」

【講師】「『人間をつくった存在だから親だ』という教えも『地球上の親と子という概念の親ではないな』ということですね？」

【Mさん】「そうですね」

【講師】「非常に食傷的な発想でいいんじゃないですか？十九歳で統一原理を聞いて、統一教会の教えに染まって二十年経った状態でこういう感じですね。その他ありますか？創造の神について頭に残っていることは？」

【Mさん】「今すぐには思い浮かばないです」

【講師】「では、もう一つ質問します。頭に残っている統一教会の教えるものは何ですか？」

【Mさん】「後の教えはいい加減で、あっているのかあっていないのかわからない。本当かウソかよくわからないものという印象です。あとは特に……」

■**全ての人間が堕落しているという教えは？**

【講師】「統一教会の一番の専売特許である『人は全員堕落している』という教えは？」

【Mさん】「それも、わからないというか……、嘘かもしれないし、嘘かホントかわからないけど、

そんなことは普通の人には判断できないものだと思いますし、答えは、それはどっちでもいいというか、あまり現実の生活とは関係ないかな、理屈だけの世界に存在しているのでは、と感じています」

【講師】「では、復帰原理『創造本来あるべき姿から救わんと、今墮落状態に落ちた位置で上に上ってくる』という復帰原理については？」

【Mさん】「それに関しても、そもそも『救い』ということが、人間に必要なものなのかな？という感じです。救われてるも救われてないも、その前に、別に人間は救いを必要としてないんじゃないかなと、最近はそののですが」

【講師】「だいぶ九十%以上は抜けていますね。私の採点では九十点です。もう理論的には九十%抜けています。多分統一教会的な教えを脱出して十年以上経つとだいたいの方はこんな感じですよ。皆この原理講論の教えは頭に入っていないのです」

【Mさん】「そうですね」

【講師】「原理講論を信じて統一教会に入っているのですが、教会を離れて十年以上経っているけど、まだなんとなく統一教会的な雰囲気まで過ごしている人のほとんどは、こういう感じですよ。教義を信じてないし、頭に残ってないです。理論的には抜けているのです。でも最後の一押しがうまくいかないのでしょ。何がうまくいかない？人生はうまくいってますか？うまくいってないという自信はあるでしょ」

### ■教会へ献金をする理由

【Mさん】「その自信はあります」

【講師】「ということなのです。奥さんがまだ統一教会に入っていると、こんなふうに思っていると話あわないことない？」

【Mさん】「ただうちの奥さんの場合、もともとそんなに教えを勉強して入ってきたわけではないので、理屈はもともとから入っていない人なのです」

【講師】「でも献金はやってるでしょ？その献金しないといけない理由はどこに発見しているのですか？」

【Mさん】「端から見ているのでなぜ献金するのか？というのは、自分が幸せになりたいし、自分の家族を幸せにしたいから、という思いがあるからで、理論的な根拠はないようです。恐怖感があるのかなと思います。なんとなくやっているというか、神様に献金しておけば神様につながって守られると思っているからやってると思います」

【講師】「統一教会という組織に献金することが、神様に献金するものだと思っている？」

【Mさん】「そう思っていますね」

【講師】「非常にこれは便利で安直ですね」

【Mさん】「完全に自分の責任は回避しているというか・・・」

【講師】「非常に自分に都合のいい発想ですよね」

【Mさん】「楽なんです」

【講師】「それが本当なら私も献金するよ。簡単だろ？ATMを操作すれば神様から『ありがとう』と言われるんだから、簡単でしょ？十秒の努力で神様からご褒美もらえるならこんな簡単なことないよね。その辺なのです」

【Mさん】『やめると何か不幸が起こるんじゃないか』と思うからやめないのです」

### ■恐怖に支配された人生を解説

【講師】「それは、『恐怖に支配されている人生』ということですよ。これはカルト教団だけでなく、一般の人もこうなのです。一般の人もそうなのです。」

開運できない奴の根本はここなのです。カルト教団に入った人は、カルト教団的な要素が『恐れ』になります。例えば田舎に住んでいる人、特に東北地方で会社の社長をやっているような人などは、

その部分が『世間体』になるのです。

だから親を捨てられない。『親の面倒をみない！』と宣言できない、親族を会社の役員にしないといけない、親族に給料を払わないといけない・・・そういうトラウマにさいなまれて、従業員が『なんだこの役員は、こんな役員しか採用できない会社は辞めるよ』と言って辞めていったりするのです。恐れです。世間から非難される恐れ、世間からの拒絶、というか、批判されることが怖いのです。いい子でいたいのです。同じです。だからMさんが特別だと思わなくてもいいのです」

【Mさん】「こういう人は多いですか？」

### ■自分の価値観を無視した生き方は奴隷と同じ

【講師】「九十%以上の人は『恐れ』を抱えています。だから皆貧乏人なのです。だって自分が無いんだから、世間からの評価を気にして怖れる。統一教会的な教えを気にして怖れる、ということは、自分の人格ではない価値観で生きているということでしょう？」

どこかからペコッと統一教会的な教えを引っ張ってきて、『これが自分の人格だ、価値観だ』として生きているわけですよ。世間体という価値観を引っ張ってきて『これが自分だよ』とやって生きて

いるわけです。自分が無いのです。

単なる世間のロボット、統一教会的な教えのロボットで生きているから、そんな金持ちになれるはずなのです。奴隷でしょ。何かの奴隷です。奴隷は貧乏したほうがいいのです。奴隷だから。人間じゃないのです。お金を持つていいのは人間だけでしょ？『奴隷が金を持つてはいけない』というくらいに思ったほうがいいです。これ（恐れ）を外した瞬間にお金は来ってしまうから」

【Mさん】「そうですか・・・」

### ■お金を持つ義務のある人とは？

【講師】「お金を持つ義務があるのです。地球の神様からすると、これ本当です。だってそういう人は少ないから、少ないからそういう人に、バカでも何でもいいわけ、お金を与えるのです。すると何でかな？と皆思うでしょ。割といいところいつてるのです。

例えば、お父さんが首を切って死んだということに関してはもうあまり何も思っていない？」

【Mさん】「何もというか、恨みは完全には消えてないですけどそんなにです。仕方ないな、という感

じです」

【講師】「父親が首を切って死んだ。これが自分の人生に影響を与えているのは事実ですか？」

【Mさん】「そうですね、影響は与えています。人間とか運命を考えるきっかけにはなっています。もともと何故生きているのか？、とか世の中の仕組みとか掘り下げるきっかけにはなっていると思います」

【講師】「その程度？その程度だったら影響ないと思って下さい。影響なしと思ったほうがいい。これを超えるきっかけとして『ありがとう』ということですよ」

【Mさん】「そういえばそうかもしれないですね」

【講師】「首かつ切ってなければ考えない？」

【Mさん】「もしもですからわからないですけど・・・」

【講師】「だいたいの場合、考えないよ、こんなことは、もしビンビン元気で精神的なそういうことも考えずにお金を儲けてみなさい、絶対遊んでるから」

【Mさん】「そうですね」

【講師】「この程度だったらトラウマはほとんど抜けていますね。つまりこれが重要なのです。そういう意味でMさんは親からのトラウマはほとんど抜けています。人間Mさんが親子というトラウマから抜けているのです。で、統一教会はこれを許すと思う？」

【Mさん】「許さないですね」

### ■神を利用して人間を情で引つ張る

【講師】「統一教会の教えは、どういう神様かというのと、どう教えてますか？」

【Mさん】「親で救いたいけど、救えないという、変な神様です」

【講師】「悲しみの神様でしょ？なぜ悲しんでいるのかというと子供がバカした（戒めを破って墮落した）からでしょ？ずっと何千年も何万年も神様悲しんでいる、という教えでしょ、これどういう神様？」

【Mさん】「さえない神」

【講師】「トラウマを持っている神様なんです」

【Mさん】「ズーツと傷を持っているということですか」

【講師】「ずっと因縁を引っ張っているんです。こいつ。トラウマ持ちなんだよ。情けないんだよ。そうでしょ？」

【Mさん】「そうですね」

【講師】「人間Mさんでさえ、親のトラウマを切っているんですよ。ところが、全宇宙を持った神様はトラウマを持っているのです。情けない神様なんです。こんなのカミクそなんです。これ恐ろしい教えでしょ？」

【Mさん】「そうですね」

【講師】「人間でさえトラウマを抜けるんですよ。たいして優秀でもないのに、たいして強くもないのに、ところが全宇宙の緻密な神様は相変わらずトラウマを持っているんだから、これでそういう日本人の情を引く張るのです。だから神様を助けなさいと、これ巧妙でしょ？巧妙なのです。」

この教えは神様を人間以下のレベルに落としているのです。統一教会の神はMさん以下なのです。トラウマを持つてるのだから、何千年も、Mさんは二十年でトラウマ抜けたんですから、この統一教会のバカ神は何千年もトラウマを持っているのですからMさん以下なのです」

【Mさん】「冷静に考えるとそうなのです」

【講師】「こんなバカ信じたって運勢よくなるはずがないのです。こんな超越してるよ。天地創造の神は。人類最初のアダムとエバが多少バカしたって何したってそれで何千年もグジグジ言ってると思うか？」

【Mさん】「思わないですね」

【講師】「バカだよ。はつきりいって、西洋人はそれを信じるからね。これを原罪といっって、西洋人の頭はそんなもんですよ。その程度」

### ■西洋医学のがん治療の発想

【講師】「病気のガンだつて西洋医学では治せないでしょ。絶対に治せないのです。今から十年前にガンはなぜ起こるか？という問題に、ガンはウイルスで起こると発表した奴がノーベル賞をとりましたが、それが今ではウソだとわかつているのです。

ところが日本人の学者の主張は、ガンなんてものは、もともと体の中にあるもので毎日五千とか六千も発生しているというものです。それが免疫システムのほうが強いのでガン細胞が消えているだ

けなのです。免疫システムが壊れたからガンが出てくるのだと日本人は昔から主張していましたが、今ではこつちが主流となりました。

というふうに西洋人の脳はどういう脳かということ『悪い奴を探せ』という脳なのです。どこまでも『悪い奴を探せ、悪い奴を探さなければいけない』となります。原罪を信じる脳では、病気の原因も『自分が原因だ』と考えられないのです。ウイルスは違うといわれ、では今西洋人はどういつているでしょうか?」

【Mさん】「免疫システムですか?」

【講師】「西洋人はそっちの発想にいけないのです。こんなふうに転換できません。転換できている西洋人は大金持ちです。ウォーレン・バフェットとかね。ああいう人は両方きれいに融合しています。ほとんどの西洋人のレベルでは、簡単に東洋的な発想にこれないですから、ほとんどが相変わらずの西洋的発想です。今の例に戻ると、悪い癌の原因はどこにある?」

【Mさん】「脳ですか?血液?ですか?DNA?」

【講師】「悪いのはDNAだといっているのです。こいつが悪いんだと顕微鏡で見ないと満足できないのです。そういう意味で西洋医学は限界です。ガンになっても賢い人は抗がん剤もやらないでしょう？ではがんは転移するでしょうか？」

【Mさん】「今までするものだと思ってましたが？」

【講師】『ガンは転移する』この考えがもう毒されています。じゃあ東洋的に発想するとどうなるでしょう？」

【Mさん】「ただバランスが崩れただけで」

【講師】「何で？例えばMさんの胃にガンがあった病院にいつて抗がん剤打った、放射線治療した。残念ながら肺に転移してしまいました。手遅れでした。これはどう考えますか？」

【Mさん】「転移ではなく、バランスがもう一度崩れただけ」

## ■免疫システムの機能低下でガンが出現する

【講師】「抗がん剤と放射線治療で体を守る免疫システムが弱くなってしまったのです。具体的にはリンパ球とかそういうものが生成される能力が弱くなるのです。そうすると、もともと肺にあったガン細胞が出てきてしまうのです。転移ではありません。病院によって免疫システムを壊されているのです。だから肺にあったガンがでてきた。というのを発表したのが新潟大学の先生です。」

これが今ものすごく非難されています。つまり病院はガン患者を副作用で殺しているのです。本当のガンで死ぬのは三十パーセントです。残りの七十パーセントは副作用で死んでいるのです。副作用は転移といって、患者が悪いといっているのです。本当はそうではないです。病院がガンを増やしてしまったのです。医学の世界でもそういう人が出てきています。これも洗脳でしょ？」

【Mさん】「そうですね」

## ■地球の主は人間に何を望んでいるか？

【講師】「思い込みです。そういう洗脳を解除するというのを、科学的な実験結果で日本人が発明したのです。たまたま医療の話をしましたけど、こういうのが多いです。」

では問題を変えます。

おそらく神、神といいますが、いろんなレベルがあるのです。多分われわれに実際に作用するとしたら、全宇宙を創造した神なんて作用しないですよ。せいぜい地球の主ですよ。地球の主的存在が、我々人間に作用していて、地球の主は、太陽系の主から作用されて、太陽系の主は、銀河系の主から作用され、銀河系はさらに・・・という段階でしょ。創造主というのはずっと先のところにいるでしょう。こんなのがジャンプして人間のところなんて作用しないです。だから地球を創造した主の立場で考えると一番現実的だと思うのです。では我々人間に作用しているのが地球の神だとしますよ、では人間に何をして欲しいでしょうか？」

【Mさん】「喜んで生きて欲しい」

【講師】「喜んで楽しく生きて欲しいですね。具体的に喜ぶとはどういうこと？」

【Mさん】「食べる、飲む、買う、性欲」

【講師】「これすなわち頭で考える精神なのか、肉体の行動なのか？どっちだと思いますか？」

【Mさん】「肉体と思えるですが、肉体を使って精神を満足させてる気もするので、どっちもいいがた  
いいます」

【講師】「人間をどのようにつくっていると思う？」

【Mさん】「一番満足させたいのが精神で、肉体はその道具では？」

### ■「肉体を楽しめ！」という地球の主のルール

【講師】「肉体が先这件事情でしよ。だって地球の主も肉体を持っているのですから、海、山、動物など、『自分の肉体を楽しめ！』といっているんでしよ、夏になったら海に行つて楽しめ、冬になったらスキーにいつて楽しめ、動物たちと遊んで戯れる、と地球の主が地球の肉体を使って楽しめと言っているのです。楽しめば、自然に精神なんかよくなるよと、言っているのです。」

— ということを考えると山の中にこもつて、人と会わないで修行して、そんな精神世界に入つて修行することが地球の主の期待に沿う生活かどうかという、そうじゃないでしょ？ 肉体を使えといつて

いるのです。肉体を使えということは行動することでしょう？あの世に行つたつて修行生活はできるのですから、もしやりたいなら死んでからやればいいでしょ？わずか八十年の肉体の期間やつておくことは肉体だろう？地球の主からみればだよ？ですから行動しないといけません」

■「安定を失う恐怖」と「限界」との葛藤

【講師】「で、今現在のMさんの生活を何か変えようと思つてますか？」

【Mさん】「思つていると思つているんですが、あのDVDをみてから、どれだけ本気で思つているかは怪しいですが、変えようと、仕事」

【講師】「仕事はどうしても嫌ですか？」

【Mさん】「嫌なのも嫌ですが、もたないです。体がまずもたないので、精神も付随して持たないです。具体的には背中が張るし、腰も痛い。年齢を重ねていくとスタミナが無くなつていきます」

【講師】「新聞を配るといふ仕事は肉体的にも精神的にももうそろそろやめたい、脱出したいという。それをやめれない一番の理由は？」

【Mさん】「やはり経済的な理由、収入が・・・」

【講師】「どっちが勝つかだよ。どっちの欲望が勝つかですよ。辞めたい欲望が勝つか、今のまま結構金もらっているからね。金の欲求が勝つかの勝負ですね」

【Mさん】「そうなんです。怠け者になっているというか、まあいいかという部分があるのも、あのD VDをみて感じたので『でも・・・』とは思っています。八対二で葛藤しています。辞めたいが八です。今は・・・」

■ 「自分がやりたい」ではビジネスの儲けは出ない

【講師】「じゃあ新しい仕事を探すために今までやってきたことは？勉強してきてどうやって稼ぐ？」

【Mさん】「そこなんです。問題は。しかし、どこか場所を借りて鑑定したとしても生きていくだけの売り上げになるとは思えないので、考え付くことをやっていかなければと思っています。まず商材をつくって売る」

【講師】「その商材とは占いの学習教材？」

【Mさん】「入り口は占いでも、そこで終わらないというか、開運、自己実現につながればいいと思っているのですが」

【講師】「それは自分がやりたいの？」

【Mさん】「自分がやりたいというのもありますし、やはり全国のMのような人に新しい道を開けるようにやれればと思います」

【講師】「ニーズですね。で自分がやりたいという自分の意思ね。自分の意志が何%で、ニーズが何%？」

【Mさん】「どのくらい需要があるのかわからないところがあるので、六が意思で四がニーズぐらいでしようか」

【講師】「ですよ。この辺りだと思っただけです。『私これやる』というのは、今日の忘年会に来るおばちゃん連中とかは、皆『私今年あれやるの、来年あれやるの』という人ばかりです。長い付き合いになります。『私これやったわ』という人は一人もいません。『やるわ、やるわ、やるわ』と何十年も意思表示ばかりしています。『やったわ』という人は一人もいません。『自分の意志』に意識の焦点やエネルギーを合わせている人は駄目なだけです。だって『自分だけ』でしょ？」

【Mさん】「そうですね」

### ■「私これやるわ、あれやるわ」と言っただけ地縛霊となっていく人達

【講師】『私これやるわ・・・』『あなたこれやるわ・・・』とか『やるわやるわ』と言っている人は、年を取ってジジイババアになると、死に間際になって『あんなこともできなかった・・・』『こんなこともできなかった・・・』と言っただけ死んでいくのです。

もしくは『こんなことをやる予定だったのよ・・・』とか『でも、できなかったのよ・・・』と言  
い訳して死んでいく『これだけやったのよ』と言って絶対に死んでいかない。『本来ならやる予定だっ  
たのよ・・・』と言って死んでいくのです。

おばちゃんと話してみなさい。絶対に『〇〇やる予定だったのよ・・・』そう言って死んでいくから、  
『あれもやった、これもやった、もうやることないのよ』と言って、死んでいく人はいないから。皆「自  
縛霊」になって死んでいくのです。

そうではなく、世の中の必要を九割ぐらいにもっていかないと、必然的に。だから、自分がやりた  
いやりたくないは関係ないのです。私が何故こんな商材をつくろうかと思っただかと言うと、自分がや  
りたいとかやりたくないはあまり関係ないよね。

Mさんの人が何人も来てしまうので、来ちゃうんだったらやるしかないだろうと、ニーズです。  
こちらに（相手に）焦点を合わせたほうがいい、自分ができなくてもいいのです。できる才能が無く  
てもいいのです。相手に焦点を合わせていくとできるから。何人いてもいいのです」

【Mさん】「日本中を探せば三人くらいはいるでしょう」

【講師】「絶対に、多分もつというよ」

【Mさん】「そうですね悩んでいる人はいると思うのです。今いるだろうし、これから出てくるだろうと」

【講師】「出てくる。何十万人もいると思うよ」

【Mさん】「そうですか」

■ニーズに意識を合わせることで、できるかどうかを考えるようでは、もう駄目

【講師】「金融資産を十億円以上持つていけば、多分そういうお客さんにニーズはないでしょう。どんな自分で前に進んでますから、金融資産十億持つてないのはMだよ。はつきり言つて、ということ、ほとんどでしょ。こちら、ニーズに意識を合わせないといけない。自分ができるかどうか考えだすともう駄目だよ。できなくてもやるのよ。ニーズがあれば」

【Mさん】「それは四柱推命でいうと財の働きですか？」

【講師】「関係ない。そんな才能は後で神がくれるの。もしも自分にはできなかったら必要な人が来るのです。地球の主がいるなら、それを信じられないというのは、もともと信仰がないんだよ。絶対に洗脳されない。信仰ないんだから。」

『ニーズに答えよう』という意識があると、才能は神が与えるんだから、他にやる人いないんだから、日本の中でこういうところ（ニーズ）に本当にピントを合わせて何か商材をつくっている人って非常に少ないですよ。何か願えば何とかなるみたいな、へんちくりんな開運手法はあるけど、みな本人の意志でしょ。」

願えばって、願えば本当に一兆円来るかって、そんなことないんだよ。ニーズがないんだから、地球の主からみたらお前に一兆円与えるニーズがないんだよ。必要ないからこないのです。『私にできるんでしょうか？』なんてことを言っただけじゃありません。地球の主からみたら関係ないのです」

### ■ニーズに気がついたら、行動する責任がある

【講師】「ニーズがあるのなら前にすすむのです。『ニーズがある』と気づいた時点で責任があるんだから、この責任を逃れると地球の主が怒ります。はつきりいって。気がついたけどやらないうこ

とでしょ。気がついたけどやらない、というのは地球の主からすると犯罪だからね。誰が気がつかせてやったんだと、怒るのです。ニーズがあると気がついたらやらないといけない。逃げたら絶対駄目なのです。逃げたらますます体が弱くなる。ますますお金が回らなくなる。新聞が売れなくなる」

【講師】「肉体を持って生まれた以上、肉体を使って行動しないと地球の神は怒るのです。そういう開運の教材をつくる予定でしたと、釈明してみ、あの世でぶったたかれるよ。予定でしたとか、考えていましたとか、そういう言葉が大嫌いだから、肉体を持つている神だから」

【講師】「その応用で○か×か問題を出していきます。正しいことをやっていたら問題は自然と解決する。」

【Mさん】「自然と解決するということはないと思います。自分で工夫して、調べて努力しないと。解決しないのでは・・・」

■自分が「正しい」と思っていることをやればいいのか？

【講師】「では質問を少し変えましょう。正しいことを一生懸命やっていたら問題は解決する？」

【Mさん】「正しいことが何なのか・・・」

【講師】「では『自分が』をつけましょう」

【Mさん】「あゝ、それだったら×です」

【講師】「これ×ですね。では×の理由は？」

【Mさん】「自分の経験からそうだなと」

【講師】「そう、これ地球の神の仕組みなのです。自分がでしょ。問題解決しないのです。じゃあどうするか？」

【Mさん】「相手ですか？他人が正しいと思うことをやっていけば？」

【講師】「これ最初正しいと思うことやるよね。例えばやってMさんが教材・商材つくりますよね。つくって売り上げ0本でした。ね。正しいと思ったんでしょ？結果、売り上げ0本でした。じゃあ、その次どう変わる？」

【Mさん】「どうして買わないの？とお客さんに聞いてみて、意見を聞いてちよつと変えてみる。どうなのだったら欲しいの？と聞いて合わせていく」

### ■世の中が認定することが正しいこと

【講師】「世の中に合うことが正しいこと、今の世の中に、もしかしたらつままないこともわかんないよ。『えっこんなしか売れないの？』という。もしかしたら正義のないものかもわかんないよ。」

そういう場合『売れないのは世の中が悪い』と思うかどうかなのです。

これ陥りやすい罠ですよね。『あなたの正義は世の中に必要が無い』と言われてるんだから『そうでした』というしかないのです。『じゃあ今の世の中の正義って何だろう？』と頭を切り替えないとけないのです。

## ■今それが売れたら、それでいいと受け入れる

ですから、信念とか自分なりの正義感とか、こういうものを持っている人は意外と失敗するのです。これ世の中の仕組みなのです。自分は「変だな」と思っても、世の中の仕組みが『今はこれがいい』と認定したらそれをやるしかない。これ地球の神の発想なのです。へんちくりんな宗教観とかいらないので。今それが売れたのならそれでいいということです。

ですから私が出した運命学奇法大全とか、四柱推命極秘伝も、あれやってみないと結果はわからないでしょ。あんなのが、誰もわからないでしょ『阿部泰山なんかバカだ』といっているんですから、あんなのを果たして出しているのかなと思っただけ、まあ必要性があると思っただけです。出したら意外と売れました。次の奇法大全は、『占いなんか使う奴はバカ』だっていうことでしょ。占いの専門会社があんなもの出してもいいかな？というのもあったけど、必要性だから出したのです。意外と評判です。

## ■「洗脳」された人が加害者

だって占いソフトの専門会社が『占いを使う奴はバカだと』いっているのですから、出していいの

かなというのはあるけど、出してみたなら売れちゃった。売れたんだからその延長でまたこれをやる。『へんちくりんな新興宗教に入る奴はバカだ』という、教祖がバカだとはいいません。教祖は賢いのです。だって何十万人もの組織をつくって金を儲けたのですから。一枚上手です。信じる奴がバカなのです。だからよく洗脳という『あなたは犠牲者だ』と言うけども、実は加害者なのです。自分の人生を駄目にしたのはお前なんだから、信じたお前なんだから加害者なんです。Mさんが新聞配達しかできないのは統一教会が悪いわけでなく、あんたが悪いのです。加害者なのです。自分の魂からみると・・・犠牲者のふりをしてはいけません。

### ■犠牲者のふりをしている限り転換はできない

統一教会に入ったから新聞配達しかできなかつたなんて言っただけじゃありません。加害者です。全ての責任は自分です。100%責任は自分にあるのです。教会に入ったのも自分でしょ。奥さんと結婚したのも自分でしょ？信じたのは自分なんだから、今の仕事を選んだのも自分だろ？地球の神が新聞配達しろなんて一度だって命令してないんだから、加害者です。これははっきりいわないと、被害者ヅラしてはいけません。統一教会に入ったから貧乏ですといっただけじゃありません。

私は完璧に転換したから、統一教会に入ったから、この会社を創ることができて、金持ちになった

のです。素晴らしい教団に出会えてラッキーだったと思っただけです。だって統一教会に入つてなければ占いなんて勉強しなかったですから、それで何億円も儲けたのですから、私にとって統一教会は福の神です。全然犠牲者でない。という考え方です。いつまでも犠牲者のふりをしてると転換できません」

【Mさん】「そうですね。あの佐藤六龍もよく言うんですけど、マルチ商法も昔からあるけど、あれはだまされたほうが被害者というけど、違うんだ、だまされるほうがバカなんだ。だまされた人を逮捕して牢屋にぶち込んだほうがいいとか、殺したほうがいい、とかよく言ってます」

【講師】「そう、そのとおりなんです。そうかなと思います？」

【Mさん】「最近になってそうかなと・・・」

### ■マルチに引っかけた人はズルイ人間

【講師】「マルチ商法に引っかけたのは皆、まずズルイ奴だからね。楽しんで金欲しいという。もう一つ

は孤独ね。なんかマルチをやると周りに人がくるんで一時的に孤独感が無くなるのです。寂しいからやるんです。

こんなあるわけもない話しにのったということは、バカだったということです。楽しんで金を儲ける仕組みを知っているのなら、なぜ人に教えるの？ということですよ」

【Mさん】「そうです。冷静に考えるとそうなんです」

【講師】「また〇×いきます。『真理』という言葉が大好きですよ」

【Mさん】「『真理』を知りたいという思い自体が、だいぶボロボロにされてきましたが・・・」

【講師】「真理だと思ふことをやってみた、でもうまくいかない・・・。統一教会は真理だと皆思っていましたよね、それをやってみたと、やってみてほとんどの人がうまくいかないでしょ。じゃあその教えというのは真理なの？」

【Mさん】「真理ではなかったということですよ」

■統一教会の教えではうまくいかないというデータ

【講師】「はつきりデータ出ているでしょ？統一教会の原理を未だに信じている人は100%失敗しているからね。貧乏ですから、幸せな顔をしてないから。一人でも未だに統一教会の信者で、原理講論を信じていて、幸せな顔をしているのであれば連絡して下さい。インタビューしますから、本当かどうか、少なくとも私のいた東京埼玉の統一教会で千人位ですよ。四国だと二百人くらい、一人も幸せな顔をしてないですから、うまく行ってないのです。そういうデータがでているということはウソなのです。」

■教会の教えどろりにいかないのは世の中が間違っているから？

ではうまくいかなかった。うまくいかないのは現実の社会が不当、間違っているのです。だから何が、目に見えない神の力が成り行きを変えてくれる、これホントかどうか？」

【Mさん】「これ×です」

【講師】「どの変が×と思いますか？」

【Mさん】「これも結果ですね。自分自身こういう発想でやってきましたが、何もよくならないし、世の中よくならないし、教会の人は、逆に生活保護をもらったり、市営住宅に安く住んだりと国家や自治体のお世話になっっている人も割といます。みんなのお世話をするという理想なのに・・・、人とか自分だってそうになっているんだから、これはウソという感じがしています」

【講師】「そうですね。『何か』というところが駄目ですね『何か』ということは、もう逃げているのです。うまくいかないのを誰かのせいになっているのです。誰かのせいにして誰かが抱えてくれるという、現実から逃げているのです」

■自分以外の誰かが、自分の代わりに人生を変えてくれる？

【講師】「次の問題。自分以外の誰かが自分の代わりに人生を考えてくれる。これは？」

【Mさん】「×です」

【講師】「自分で考えるしかないでしょ？」

【Mさん】「そうなんです。実は」

【講師】「実は、というまで何年かかった？」

【Mさん】「二十年近くかかりました」

【講師】「この『自分以外の誰か』というのは、あるときは教祖だったりするでしょ。あるときはどっかの偉い人だったり、どっかの成功者とか、あるときは占いだったりするでしょ。

### ■ 「偉い人に会った自慢」こんな人は絶対成功しない

偉い人に会って自慢する人がいるんだけど、その人はこのパターンです。マルチャやってる人に多いです。こんな資産家にあつたとか、こんな人知ってるとか、そういうことを自慢する社長も多いですが、このパターンです。そういう人は絶対に成功しないから。

これおそらく、我々の親の世代はトラウマをもっている人が多いですが、何のトラウマを持っているかというと学歴コンプレックスみたいなものです。

うちの親父がこれ激しいのです。貧乏で大学もいってないし、高校も人より二年くらい遅れて入ったような感じですよ。その後、一応大企業に就職したから上司は東大、京大卒なのです。高卒は勝てません。それで学歴コンプレックスが強いのです。

東大出からいじめられたと言っていました。親父は傷官持ちだから、技術的には優秀で、国家試験とも合格して、住友化学新浜製造所で初めて高卒で部長まで出世したという、優秀だったみたいです。でも学歴コンプレックスを持っているのです。ではこのトラウマをどうするかというと、彼は脱出できなかった。これが子供に来るのです。自分のコンプレックスやトラウマを子供に押し付ける。子供に対してどんな教育を思う？」

【Mさん】「一流大学に行けという？」

■「東大に行けという教育」その結果どうなる？

【講師】「東大に行けというんです。生まれた瞬間からこういう教育をされるのです。で東大いけませ

んでした。東大に行けといわれて東大にいけるやつは、はつきりいつていないですよ。こんなプレッシャーかけられて、プレッシャーかけられると頭がバカになるんだから、で大きくなると、私はどうなったと思う？」

【Mさん】「反学歴、学歴が嫌になった？」

【講師】「そうなんだけど『東大行けなかった・・・』を引きずるのです。どうしてもサラリーマン時代とか、東大出身の人をみると『勝てないんじゃないか・・・』とかいう思いが出るわけです。じゃあその思いをどうしたらいいと思う？『東大ではかなわない・・・』という思いが自分にも実際出てくる。産まれて瞬間から教えられているから出てきてしまうのです。どうしたらいい？」

【Mさん】「・・・？」

### ■劣等感に直面したときに重要な対応の仕方

【講師】「ここが大事です。今回の一番ポイント、トラウマとか、自分の抱えているコンプレックス、

なかなか越えられない課題に直面した場合、そういう気持ち湧いてくるのです。そういう場合にどう対応するかですよ。どう対応する?』

【Mさん】「…………。学歴じゃないところで勝負する」

【講師】「それで勝負できると思えます?勝てると思う?それで親からの因縁をそこで精算できる?これは因縁切りの問題です。さあ、どうするか?

一、あきらめる

二、逃げる

三、戦う

四、認める」

【Mさん】「正解は『認める』っぽいですが、ほとんどの人があきらめるんじゃない?」

## ■心に湧いてきた感情を認めることが重要

【講師】「認めることが大事なのです。つまり許すのです。許すということは、正確にそういう湧いてきた感情を見るのです。自分で、『自分はこの人にも東大卒の奴をみると、こういう感じが湧いてくるみたいだ。情けないトラウマを持って大きくなってしまった・・』と認めるのです。そして許すのです。冷静に認めるのです。認めるとどうなるかというところ、やっと認めたのかといって、いい運が来るのです。まずここからです。認めるのです。正直に。正直さです」

一、二、三あたりは不正直なのです。『だってそうなんだからそうなんだ』というだけなのです。現実そういうのがあるんだから『ありました。しょうがないです。そういう自分を許します』と認めて認めるのです。認めるとなんだか知らないけど、目に見えない力がやってきて運がくるのです。

で、運が来ると、私の場合はどうなったかというところ、うちの父親は年収千五百万円が最高でした。住宅ローンも三十年で返しました。乗ってる車は代々新車を買ってきましたがカローラです。男と男の勝負でしょ。力比べです。気がつくとい私は年収三千万でした。住宅ローンは三年で返しました。『乗ってる車はベンツ、親父年収千五百万だったのか、情けないな二倍だね』さあ、どっちが偉いのか？

『住宅ローン三十年かかったの？三年で終わっちゃた』と言う。『まだカローラ乗ってるの？うちべ

ンツだよ』これがまず第一弾。力づくでぼこぼこにやつつけるのです。だから俺のほうが偉いんだぞというわけです。

### ■自然に学歴コンプレックスが溶けた事例

その次、第二弾があります。フォーチュンソフト社の取引先の社長で、東大出の奴が三人でてきたのです。IT企業の社長でしたが、三人とも会社を倒産させて、そのうち一人はプーターローになって新宿で乞食です。ダンボールの家で生活しています。目の前でそれを見ているでしょ。くさい感じで、東大出の乞食です。

はつきりいって、会社をつぶした東大出を三人も見ると学歴コンプレックスは消えます。無理して最初は力づくで親父をやったけど、こういう人達を見ると、『可哀想』と今は思います。東大出身となると『あつ可哀想』と、東大出身というのに束縛されていないといけないわけでしょ。これ可哀想。で、うちの子供のお父さんお母さん達と話すと、相変わらず、学歴重視でしょ？四国の田舎でも『東大出凄い！』となるでしょ。そういうお父さんお母さんを見ると『あつ可哀想、子供が可愛そう』と素直に感情が湧いてくるのです。

## ■「小学校中退でも怖くない」という安心の状態

完璧に因縁を切ったのです。だからうちの子供は『小学校中退で構わない』と言ってるのです。見てるからです。東大卒業で乞食になった人を、三人とも会社を潰したんですから。東大出は能力が無いというのが頭にはつきりあるのです。だから怖くない。小学校中退でも怖くないと思ってるのです。だってバカだもん。

誰かが大きな波を起こしてくれて、その大きな波の最終段階でちよこつと乗って儲けた奴は多いです。具体的にはITとかSEO、IPOこういう言葉の波の上で、もうそろそろ大きな波の最後かな？というところではばつと会社をつくって儲けて、つぶしたという。バカなのです。誰かがつくった大きな波しか乗れないバカなのです。自分で波を起こせないのです。

というのを見てしまうと自然とコンプレックスは消えてしまうのです。無理してないです。そのきっかけは、ただ認めただけ、素直に認めただけ。このコンプレックスは全てに対して言えることです。

## ■自分の中の湧いてきた感情を認めることが大切

特に統一教会的教えにはまると、異性に対しても同じようなコンプレックス抱くでしょ。『この女性とまぐわいしたらどうなるのか？』と、『したらその先どうなるのかな？』という恐れとか不安が

必ず湧いてくるのです。これも、したくなったらすればいいのです。素直に、素直にしてみても結果を自分で冷静にみつめて判断すればいいのです。面白いですよ。

そういうのを、私の心の中にある統一教会的な『女性とまぐわいたらいかん』というのが残っていたのが十年前ですよ。それを認めたら女がいつばい来たのです。素直に認めたら来たわけ、性欲はあるけど、それはいけないというまだまだ統一教会の教えが残っているというのを認めたわけです。『だらしがない』と認めたら。女の人が一杯来たのです。

こういう占いを教えていると、實際来るのです。きれいな女の子が、『天野先生抱いてください』と来ると『よし』しか無いでしょ。認めたら、それを変えるための環境は地球の神が用意するのです。不思議と。やってみて『なるほどな』と体でわかると、ぴたっと止まるのです。今はこういうのは来ないです。ある程度経験してわかったことがあると『それでいいんじゃない』と素直に認めることです。

### ■地球の主は「やったらどうなる?」という恐れを一番嫌がる

いいとか悪いとかじゃなく、湧いてきたらそれを認めるのです。『そういう気持ちで自分の中にあるんだな』認めれば、そういう環境は地球の神が用意するから、『じゃあこれで実験してみよう』と、それを勇気のないやつは怖れるのです。『やったらどうなる?』そういう恐れを地球の神が一番嫌が

るのです。せっかく五体満足な肉体をつくってやったのになんだこいつらはと、で開運の門が閉まってしまうのです。

予測はつかないです。『やったらどうなるか』という。そこを一步前に出てやっていると勝手に来てしまうのです。そういう地球の神とのキャッチボールができてくると、だんだんこつがわかってくるのです。仕組みというのが、それが実際の現実の世の中の仕組みだから、まずやってみる、グジグジやってないでまずやってみると、駄目だったら駄目と解答が返ってくるから、恐れがだめですよ。で、今一番感情で根っこにあつて引つかかっているのはどういう感情？」

【Mさん】「感情？」

【講師】「認めないといけない感情。一番の葛藤は？仕事とお金の葛藤？」

【Mさん】「それもですが、あと性欲の問題に関しても、あります」

【講師】「奥さん以外も女が欲しいということ？」

【Mさん】「はい、欲しいというか、実験で関係してみたい。ただ奥さんとの関係が壊れるとそれも大変だなと・・・」

【講師】「これ恐れです」

【Mさん】「あゝ」

【講師】「勇気ないでしょ。結局『恐れ』でしょ。仕事とお金、これも多分根っこは同じです。『収入が無いのにどうするかという恐怖感』恐怖の神にとりつかれると、それは悪魔です。これは自分で越えないといけない。ここは誰も助けられません」

■「私これやる」ではなく行動にエネルギーを使う

やってみないとわかんないでしょ。お金も女も、やってみて壊れたのなら最初から壊れているのです。やってみて乞食になったら最初から乞食なのです。たまたま新聞の仕事で二十年間食ってきたけど、本当は二十年前から乞食をやってたんですよ。と思ったほうがいいです。

『恐れ』の気持ちのある人は、必ず言葉が『私これやるのよ』という意志にエネルギーを使っている。行動にエネルギーを使わないのです。口から出るエネルギーはいらないのです。実際にやるとしたらエネルギー使うでしょ。恐れがあるから『これやるのよあれやるよ・・・』です。

### ■教育の重要ポイントは「恐れ」の克服

東大出の社長もこんなものばかり、子供に教えないといけないのは、ここ『恐れ』です。生まれた瞬間から教えないといけないのはここです。『怖れるな、やってみなさい』何をやっても大丈夫だから、何をやってもお父さんが許してあげるから、子供のころからこの『恐れ』を切らないといけない。訓練です。これが親の一番大事な仕事です。それを勉強しろとか英語の塾行けとか、そんなことばかりやっているから、東大出身の乞食になってしまうのです。もうやらないと、もう遅くなります。自分を信じてやってみなさい。失敗してもいいからやってみなさい」



## 第十三章

---

これからの時代をどう生きるか？

※この内容は二〇一〇年のセミナーに、一部加筆された内容です。

### ■これからの日本と世界はどうなるのか？

これからの日本と世界はどうなるのかというテーマを解説してみたいと思います。スピリチュアルなものや、占いのものをやっている人に「これからの日本や世界はどうなるか？」と質問してみると、必ずといっていい程、百分不安の発想に陥っているのがわかります。

例えばマヤ暦は二〇一三年で終わっていますが、これを根拠に「地球最後の日がやってくる」みたいに真剣に思っている人がいます。あるいは「地球は一部の〇〇家によって支配されている。そして日本からお金を巻き上げるために悪いことをしている」とか、あるいは「悪魔的な集団がいて全人類を滅ぼそうとしている」とか「宇宙が・・・」など、世間を見わたすと不安を煽る材料ばかりが蔓延しています。

### ■世間にはあなたを「不安」にする情報が溢れている

ここで、よく思い出して欲しいのが、「不安とは一体何か？」ということですが、心が不安な気持ちに陥ると百分、あの世で恨みつらみを持った悪霊があなたに憑依するということです。悪霊をあなた



新聞やメディアは常に大衆の感情を煽っている

に憑依させるための情報が蔓延しているのが現状なのです。

占いのなもので目に見えないスピリチュアルな分野をやればやるほど、多くの人が悪霊にとりつかれてしまうという現実があります。その証拠に「日本の将来こんなに明るいですよね！」と言いながら、占いのところにお金を払って相談に来る人は一人もいません。

■株や相場にも「不安」を刺激する情報が溢れている

これは株の売買や相場をやるときも一緒です。投資の分野にも「日本は駄目だ」という不安をあおる発想が蔓延しています。昨年（二〇〇九年のこと）は日経新聞に何と書いてあったと思いますか？

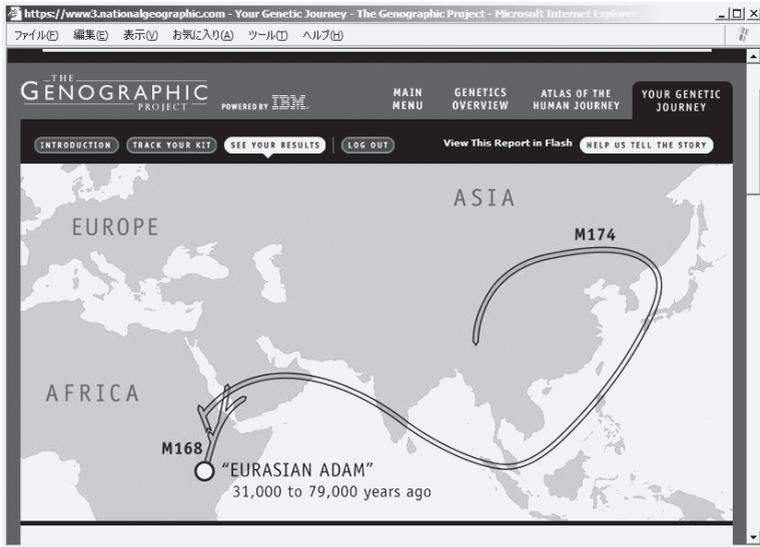
そこには『日本は世界のマーケットからイグノア (ignore) された、日本は無視された、日本という国家が無視され続けた』と書き綴ってました。世界の中で東京マーケットだけが取り残され、日本が無くなったみたいに書いていました。

ところが今どうですか？ 今なんだか知らないけれど、二〇〇九年三月に株価が底を打ってから上がってきました。この上昇率は先進国でも上位のほうです。そして二〇一二年、日本は「セーフヘブン」と言われ、世界の金が安心して集まる国になってきましたね。「日本イグノア」は一体どこにいったのでしょうか？ これを書いた日本経済新聞の記者は謝ったのでしょうか？

こういう世の中に氾濫している情報が頭の中に入っていると、心が不安になって悪霊が憑依し、あなたの人生は失敗するのです。断言できます。そこで、こういう発想に陥ることなく、あなたが天からの平安と喜びをアンテナでキャッチできるように話します。

### ■あなたの心のアンテナが平安と喜びをキャッチするために

最初にするのが「日本人は一体どこからやってきたのか？」という話です。オカルト的な話ではありません。扶桑社から出版された「新しい歴史教科書」の中学校の教科書の最初の頁に、『日本



ジェノグラフィック・プロジェクトに参加すると、DNA情報から、自分の祖先がどの大陸からどこを経由して、自分へとつながっているかを知ることができる。上図はある日本人男性の経路

人のあけぼの、日本人はどこからやってきたのか』という部分があり、そこには世界地図が書いてあります。日本の現役中学生が今勉強している内容です。私が勝手に書いたものではありません。

### ■日本人は一体どこから来たのか？

最新のDNAの研究によって、一番最初の人類始祖アダムとエバ（原人）はアフリカに生まれたといわれています。アフリカで生まれ、その後中近東に行って、そこで世界最初のメソポタミア文明が発展しました。それから人類はヨーロッパ、アジアを渡って北米、南米と移動していったというのが大きな動きです。

中近東で発展した文明のビックバンですが、その中心的民族にイスラエル民族がいました。彼らは今から四千年前にエジプトからモーセに率いられて、現在のパレスチナにイスラエル国家をつくりました。しかし、その後イスラエル国家は分裂し無くなってしまいました。それからユダヤ人の国家は長い間、歴史から消えてしまいました。

それが第二次世界大戦の終了後一九四五年以降に、ユダヤ人がパレスチナ周辺の土地を買い占めることによってイスラエル国家を建国しました。土地買収でイスラエル国家をつくったのです。

### ■ユダヤ人の生み出した占星術が世界の占いのルーツ

ところで今の占星術も、もとをたどればユダヤ人がつくったといわれています。ユダヤ人がオギヤールと産まれたときの星の位置をみて、占星術のもとになるものをつくったのです。その一番初めの占星術がカバラだったといわれています。

彼らは国を失ったことで世界中に散っていったのですが、それと同時に、ユダヤ人が発明した占星術も各地へ散っていきました。それがヨーロッパにいくと、欧州人はもともと理性的な民族なのでホロスコープという占いに進化しました。アジア、特に中国では四柱推命という形に変わりました。インドにいくと宿曜経に変わりました。このように、同じような星をみて人間の運命や資質を占うとい

うものが、各民族に合わせて発展していったのです。これが大まかな占いの歴史です。

そして現代になってフォーチュンソフト社では、バラバラに変化した占術を全部融合できるのは日本人だけという使命感があつたので「星平海会」という西洋と東洋の占いを全部まとめる方法を提唱しているのです。

### ■キリスト教国家の理念の根幹はイエスの弟子パウロの思想

こういう大きな流れを踏まえた上で次の内容を解説します。

今の西洋諸国はキリスト教国家ですが、実は最初からキリスト教国家だったわけではありません。さらにキリスト教自体が、実はイエス・キリストがつくった宗教ではないのです。

イエスはユダヤ教徒の家に生まれていますから、もともとはユダヤ教徒です。イエスという人物はユダヤ教のトップ達に反旗を翻して、喧嘩をして国家権力によつて殺された革命家的な存在でした。

そしてイエスの死後に、イエスの教えを引き継いだパウロという弟子がいたのですが、このパウロがイエスの教えをカスタマイズして国家の支配にうまく適合できるように教えを変えていったのです。それが現在のパウロ神学の原型です。ですから日本人の多くは知らないのですが、キリスト教の開祖はイエスではないのです。パウロなのです。

## ■パウロ神学は権力者にとって都合のいい思想

そして次に、このパウロ神学の一番のポイントについて説明します。

新約聖書のローマ人への手紙は、パウロが書いたとされる内容ですが、その第十三章一節から三節には以下のように書いてあります。

【すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。なぜなら、神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである。したがって、権威に逆らう者は、神の定めにもむく者である。そむく者は、自分の身にさばきを招くことになる。いったい、支配者たちは、善事をするものには恐怖でなく、悪事をする者にこそ恐怖である。あなたは権威を怖れないことを願うのか。それでは、善事をするがよい。そうすれば、彼からほめられるだろう】

この部分に何が書いてあるかというと、「権力者には従いなさい」と書いてあるのです。その理由ですが、「その権力は神によつての裏つけのあるものだから権力者に従いなさい」ということです。

こういう考え方を背景にして神学がつけられているのです。これは国家や皇帝にとっては非常に都

合のいい学問です。パウロ神学の内容というのは、権力者＝神という発想が根底にあるのです。こう説明するとキリスト教とは恐ろしい思想だと思いませんか？

さらにローマ人への手紙には「あなたが権力者を怖れるのは、あなたが悪を行っているからです」という内容が書かれています。そして「だから善を行いなさい、善を行えば権力者はあなたを誉められる」と続いています。ところが、これは本当はインチキなのです。このことについて事例を解説します。

#### ■「善を行えば権力者は誉める」は本当か？小沢一郎の場合

今の日本の官僚政治をなんとか変えようとしていたのが民主党です。その中心人物が小沢一郎です。これは国民にとつては善をやっています。いいことやっているのですが、実際どうなったでしょうか？小沢一郎は検察という権力集団から取り調べを受けています（二〇一〇年当時）実際の社会では、いいことをしている人は権力者を怖れなければいけないのです。だから、「いいことをしていれば権力者から誉められる」というのは嘘なのです。結局さっきの聖書の内容は「権力者のイエスマンが誉められる」ということをいつているのです。これがキリスト教の教えなのです。

## ■「善を行えば権力者は誉める」は本当か？ 税務調査の場合

別の例を紹介します。一回でもいいから国家権力につかまってみるとわかります。具体的には税務署です。きちんと経理をしているのに、税務署が入るとどんな嫌な思いをするのか、経営者なら一度や二度は経験していると思います。シロでもクロに転換して持っていくきます。法律は全てグレーな部分がつくられているので、グレーであればクロにできるのです。高級官僚がそうつくっています。日本の法律は高級官僚や税務担当員がクロといえれば経費にならないのです。これが日本の国家の構造です。すから怖いです。

## ■税務調査フォーチュンソフト社の場合

以前私は実際に税務調査で一回徹底的に喧嘩をしました。税務署から来た請求書が五百万で、更に「通帳を出せ」と言ってきました。これには納得いきません。請求が五百万円の理由が何かというところ、「お前の給料が高いから」というものでした。松山市の税務職員の平均給料が四百万円、私の給料が一千万円を越えているので、その差額に対して税金をかけるという発想です。

私が「代表取締役社長の給料は税務職員が決めるんですか？」と聞いたら、彼は「そうだ」といいました。これが権力です。当時は税理士をつけず自分でやりましたから、自分で申告してましたから、

税務署としてカモだったのです。

税務署がこう言ってきたので、私は頭にきて東京の弁護士と税理士を連れて松山税務署に行きました。「社長の給料は税務署の職員が決めるといったのは本当でしょうか？ 税務署の職員の給料の差額に税金がかかるというのを、弁護士と税理士の前でもう一回言って下さい」といいました。そしてその瞬間に「もういいですから」と請求額が〇円になってしまいました。こういうことを経営者は大概経験しているので、善を行えば支配者から褒められるなんてことは絶対に無い、ということを感じています。そういう意味でキリスト教というのは権力者にとって都合のいい教えなのです。

### ■キリスト教の盛んな地域には巨大な権力が出現しやすい

また、そういうキリスト教精神がアジアで盛んだったのが平壤（ピョンヤン）でした。北朝鮮です。そして韓国もキリスト教が盛んです。北朝鮮の思想を主体思想といいますが、これは金日成は神であるという思想です。これはまさにキリスト教的な教えで、神の子イエス・キリストのみが全てをわかっている人で、あとのその他は従えという構図がよく似ています。ですからキリスト教は北朝鮮の思想と似ているのです。同じように韓国にもそういう人物がいましたね。文鮮明です。これが統一教会の背景です。

## ■キリスト教が権力者に利用されるようになったニケヤ会議

こういうつまらないキリスト教になってしまったのは、西暦三二五年に行われたニケヤ会議がきっかけとなっています。これはキリスト教の第一回目の全体会議で、教義の正当性が決定された会議でした。このことは中学校の教科書にも書いてある歴史的に有名な事実です。この会議で当時のローマ皇帝が「我々の宗教はキリスト教一本にしましょう」と決めてしまいました。

つまり大衆を支配するのに都合のいいパウロ神学を使い、ニケヤ会議でもって我々の宗教は自分達にとつて都合のいいキリスト教に決めてしまったということです。実はこのとき、イエス・キリストのもととの教えがずいぶん削ぎ落とされてしまいました。

## ■「輪廻転生」の教えも公認されず教義から削ぎ落とされる

その中でも一番大きく落ちたのは、イエスが輪廻転生を認めていたことです。実は彼は「人間は生まれ変わりをする」と言っていたのです。だから、もともとこのイエスの教えには「この世でできなかったことも、もう一回生まれ変わってやり直すことができる」という許しの発想があったのです。

ところが、この輪廻転生の発想は国王や権力者としては困る教えなのです。そのためキリスト教を国教としたときに正当な教義として公認しなかったのです。権力者にとつては「生きている間に、で



西暦 325 年に行われた「ニケア会議」の様子を描いた絵  
この会議で正当とされるキリスト教の教義が決められた

きるだけ頑張らないといけない」という恐怖の発想を大衆に植えつけておくことが必要だったのです。そうでなければ大衆が怠けものの集団になってしまい、国王は困ってしまいます。こういう理由で輪廻転生を抹消したのです。だからニケア会議で「人間は転生はしない」と結論づけたのです。

### ■輪廻転生を否定する統一教会

実は、統一教会の文鮮明もこの教えを引き継いでいます。何故でしょうか？

その理由は「人間が輪廻転生をする」という仏教的教えを大衆に教えてしまうと、皆が自分の人生を許してしまうので、下手をすると組織が怠け者の集団になってしまうからです。それは組織や集団のトップとしては困るのです。

例えば命式に戊のある人などは、のんびりしてますから「今が駄目なら、来世で頑張ろう」という感じで、輪廻転生の教えを受

け入れると「それは、とてもハッピーな教えだ」と捉えて、教えに対して手を抜くようになるのです。組織のトップとしては、こうなってしまうのは困ります。だから常に恐怖を与えておく必要があるのです。「人間は転生できませんよ、だから今頑張るしかないんですよ」と脅かしておくには輪廻転生の教義を無くしてしまえばいいのです。そうすると管理しやすいのです。

## ■ニケア会議からヨーロッパの歴史の流れが変わっていった

「国王にとって都合のいい決定が西暦三二五年に行われた」という事実から西洋諸国の歴史が始まったと思ってください。西暦三二五年以降ヨーロッパの歴史は変わっていったのです。なぜなら、それまでのヨーロッパの宗教は精霊信仰だったからです。

例えば森には森の精霊、木には木の精霊が住んでいるという発想がありました。万物全てに神様の霊が住んでいるという信仰で、日本神道とよく似た信仰でした。しかし先ほどのニケア会議で、当時のローマ皇帝のコンスタンチヌス一世が、そういう精霊信仰を潰し排除したのです。

そして当時、ニケア会議の決定を受けて「このキリスト教はインチキだ」と思った人達も多くいました。そしてその人達は「これからヨーロッパは駄目になる。こんな宗教を国教にしては駄目になる」と思い、ヨーロッパを捨てて民族大移動をしたのです。今までの精霊信仰を守り続けるということは、

ニケア会議で決まった新しい教義に反するわけですから、国家から迫害されてしまうのです。

■ニケア会議の決定に納得できなかった集団はどこへ？

ではその人達はどこへ行つたのでしょうか？

それはアジア、そして日本、こういうふう逃げたと予想できます。精霊信仰とはすなわち多神教のことです。中国も日本も昔からそうです。多神教を受け入れる民族です。日本人の何でも神様にしてしまう信仰は、もともとの古いヨーロッパの精霊信仰によく似ています。日本人だけの視点からは、なかなかこう発想は出てこないですが、実は今リアルタイムのヨーロッパに、そういう視点をもって世界や日本を見ている人達がいるのです。

これには理由があります。彼らはこれまでのやり方や価値観に行き詰まりを感じているのです。今まではキリスト教文明圏の国々が世界をリードし、あらゆる分野を発展させてきました。しかし皆さんもニュースなどでご存知のように、ここ最近では、これまでどおりのやり方では国や経済がうまく回らなくなっているのです。そのことに彼等も気づいているのです。

## ■一神教文明の発想の限界とは？

一神教という教えは、例えば「イエスの神が唯一正しい神だ」ということです。「唯一の神を信仰する我々は善で、残りの全ては悪」という発想です。これは「善と悪」「敵と味方」を分ける発想です。二分思考です。つまりこれが続いている限り戦争も永遠に無くなりません。

中東の戦争も同じです。モーセやアラーの神が善でイエスの神が悪だという戦争です。「俺だけが正しくてあとは悪」となると戦争しかありません。だから闘争と戦争が永遠に続くのです。

ところが、「そろそろこれをやめないと地球がもたないな」と、さすがに西洋人も気がついてきたのです。実はヨーロッパ人の貴族階級の人達が、このことに気づいているのです。

## ■ヨーロッパの貴族階級が感じている危機

彼らは「そろそろ今までのやり方をやめて、次の新しいシステムに国全体を移行させなければ国や地球がもたない、ヨーロッパがもたない。富がみんな日本やアジアに行ってしまう」という恐れを抱いているのです。

実際のお金の流れと照らし合わせても、そうなりつつあります。今世界のお金はどこに集まっていると思いますか？実はアジアです。例えば世界で最も車の生産台数が多い国はどこでしょうか？

二〇一〇年に中国が初めて世界一位になりました。今の世界で一番車が売れる国なのです。ですから世界中の車のメーカーがどんどん中国に工場をつくっています。フォルクスワーゲン、BMW、GM、トヨタ、ホンダも中国で生産しています。年間千二百万台以上が売れています。中国や他のアジア諸国も含めて、どんどんこれから勢いは増していきます。このように世界中のお金がアジアに集まり、西洋のお金がアジアに来ているのです。ヨーロッパが貧乏になってアジアにお金が集まるようになってきているのです。

### ■アジアに富が流れる理由を考える

ヨーロッパの貴族達はこういう現実にはぶつかって、「なぜだろう？我々の仕組みが間違っていたんじゃないか？」と思い始めています。しかしアジアに富が集中するのを黙って見ているほど西洋人もバカではありません。反省をしているのです。「ちよつとまずいぞ、これまでの流れはブッシュで終わりにしようじゃないか、そろそろ違う流れをつくる必要があるぞ」ということで実はオバマ大統領が誕生したのです。

そういうヨーロッパの貴族達は「西暦三二五年以前にあった、もともとのヨーロッパ民族が持っていた信仰を受け継いでいる民族や国はどこにあるのかな？」という目で世界中を見ているのです。そ

して、そういう発想で国を運営しているのはどこかというところ、実は日本がナンバーワンだったのです。西洋人が嫌いなイエローモンキーの日本人が「実はもともとのヨーロッパ的な思想を二千年以上継承してきたのかもしれない」という目で彼らは今歴史を再検証しています。

### ■ニケヤ会議以降、日本列島にヨーロッパ人が流れ着いた可能性

「西暦三二五年にニケヤ会議が行われた。その時に『ローマ皇帝のキリスト教はインチキだ！』と言って、ヨーロッパを逃げ出した民族はどこにいったか？』という観点で歴史を眺めてみるのです。「西暦三二五年以降、急激に歴史が転換した国はどこか？』と世界史を見ると、やはり日本が当てはまるのです。

日本列島にちょうど大和朝廷ができたのもこのころで時間的にもシンクロしています。石器時代が終わり縄文時代となり、次の弥生が終わり、日本列島に稲作が広まり各地に古墳ができたのはじめた時代です。

もしかしたら日本は、ヨーロッパから逃げてきた人達が住み着いて文明を発展させた国なのかもしれません。つまりヨーロッパの貴族からすると「我々の先祖が日本にいたのでは？」という観点で日本をみつめているのです。

## ■邪馬台国とは、どういう国なのか？

それでは邪馬台国とは一体何なのでしょうか？邪馬台国のトップが誰かと言うと卑弥呼です。卑弥呼はシャーマンの能力を持っていましたが、実はシャーマンというのは精霊信仰と深く結びついています。シャーマンがいる民族というのは、大自然の神々と通信するような民族です。

邪馬台国というシャーマン信仰を持った民族が、突然日本史にあらわれるのですが、そこから日本史が突然変わっているのです。突然変わるといえるのは突然天才がオギヤーと生まれたので変わったというわけではありません。やはり「外から何者かがやって来た」ととらえるほうが正解でしょう。その何者かが、もしかするとニケヤ会議で迫害された、精霊信仰を持った民族である可能性があるという事です。

## ■世界史の謎「イスラエルの失われた十部族」

更にニケヤ会議以前の紀元前七二二年にパレスチナに建国されていた「北イスラエル王国」が滅亡し、続いて紀元前五九七に最後のユダヤ人国家の「南ユダ王国」が滅亡しているのですが、それ以降、本来十二部族あったイスラエルの部族のうちの十部族がどこにいったのか行方がわからなくなっているのです。こういう古代史マニアの間では有名な歴史の謎があるのですが、もしかするとこの失われ



## イスラエルの十支族の足取りにはいろいろな説がある

た部族も日本にきているのかもしれない。そして、もしかするとニケア会議以降ヨーロッパを逃げ出した人達が、先駆けて日本列島に定着していた、そういうイスラエル民族の未裔たちと合体した可能性もあるでしょう。

### ■これからの時代を読む場合、地球レベルの発想が必要

なぜこういう話をしたのかというと、これから時代の先を読む場合に、アメリカがどうだヨーロッパが日本が、経済が……といったもなかなか当たらないからです。今までの地球の仕組みがそろそろ限界に達しているのは、なんとなく皆さんもわかっていることですが、これからの日本どうなるのか？これからの世界はどうなるのか？を予想するときに、その答えは皆さんが地球の主という立場に立ってみなければ分からない問題なのです。

## ■大企業のトップや世界の貴族はどう発想しているのか？

「地球の主はこれからどうしようとしているのか？」という発想です。実は大企業のトップたちやヨーロッパの貴族達はこういう発想でこれからの歴史をつくっていくこうとしています。「地球の主と発想を合わせていこう」という発想です。地球の主は何をしようとしているのか？そのシナリオを考える。想定する。そしてシナリオに沿って実行してみる。そして実行の結果検証する。地球の主の考えにあっているかどうかを検証していくという。こういう発想です。

## ■「何でも受け入れる」日本人の多神教的要素は「売り」

大まかな流れはそういうことです。ですから「なんでも受け入れる」という日本的な多神教の要素はこれから「売り」なのです。世界の人から見ると「買い」の材料なのです。ですから既存の企業をみる場合も、例えば、人々に平和と安らぎを与える終身雇用制をとっているのかとか、そういうもとのヨーロッパ民族が持っていた善なる発想に一致しているか？というふうに見ている可能性があるのです。「企業の経営が悪くなると従業員の首を切ればいいだろう」みたいな、そういうアメリカに代表される西洋的なものを、未だにガンガンやっている経営者はアメリカナイズされた、頭が西洋的なものに洗脳された駄目な経営者、駄目な会社、とみている可能性が大きいのです。

これからの世界がどうなるかということですが、小さな話をやってもしょうがないので、今は大きくのごとをみて、これからの人生設計をしないとイケません。ですから世界の人々、特にヨーロッパの貴族連中が「日本人が本場にわれわれの精霊信仰をきちんと受け継いでいるのか？」という目で日本をチェックしていると思つて下さい。

### ■日本の森は精霊信仰的発想で管理されているか？

具体的に考えてみると、例えば日本の森林はどうでしょうか？日本の森林はドイツの森林よりひどい状態です。第二次大戦が終わってから国の指導で杉を植林しまくったのですが、その後管理してないので細い杉の木が沢山生えているのです。そういう状態はヨーロッパからみると駄目なのです。森林を大切にしていなくて「森や木に神が宿るのに何してるんだこいつらは」という目で多分見えています。

あと農家が農地を放棄して、畑が荒れたい放題になっている現状があります。土地を大切にしません。そういう状態もヨーロッパの貴族連中は「精霊信仰を守っていない」というふうにも分見しています。



## ガソリンエンジンと電気モーターを融合させる発想がハイブリッドカーを生み出した

### ■ 日本人の発想の産物ハイブリッドカー

次にハイブリッドカーに注目してみます。これに関して彼らは「精霊信仰の延長から出てきた車だな」と好意的に見ていると思います。電気とガソリンのエネルギーを一つに融合させています。

また二〇〇二年にサッカーのWカップが日本で開催されましたが、このときは日本人は日本だけでなく外国のチームも一生懸命応援しました。これも彼らは好意的にみているでしょう。

もともとのヨーロッパ的な発想とは「何でも受け入れていく」ということなのです。「日本人的なもの」といわれる、もともと日本人が持っていたものを自信を持ってやるべきときなのです。「アメリカ的なものやキリスト教的なもの、西洋的なものがない」と発想しているようでは駄目なのです。なぜなら西洋

人自身が駄目だと言っているからです。そういうものを「いい!」と言ってるなんてとんでもない話です。

### ■通貨相場と欧州勢、米国勢の構図

最後に今のアメリカとヨーロッパの戦いの構図を簡単に話して終わりにします。

リーマンショックや金融危機でアメリカは何をやったかというところ、ドルを刷りまくったのです。ドルを印刷しまくった結果、ドルがそれまでの二倍流通するようになってしまいました。日本円は一・一倍ですから、日本はあわてて資金を回収する必要はありません。ところがアメリカは二倍の量のドルが蔓延していますから、これをほっておくと必ずインフレになるのです。物価が二倍になるのです。貨幣が倍ですから、ガソリンや車の値段が倍になってしまうのです。ですからそろそろドルを回収しないといけないのです。こういう動きに出ています。

### ■自分たちの利益を守るための通貨の争い

しかしアメリカも不景気ですから、ドルが高いのと安いかどちらがいいかというところ、安いほうがいいのです。ドルが安いとヨーロッパや全世界でアメリカの製品が売れるからです。ジェット機や車が

安い価格で売れるのでドル安のほうがいいのです。ドル安にするためにオバマさんは頑張っているのです。ドル安にしなければなりません。そのためにあえて変な法案を通したりするのです。

ヨーロッパもこれをやられてはたまりません。ヨーロッパはユーロですから、米国の動きに対抗してユーロを何とか安くしようとしています。ヨーロッパはベンツとかVWとかBMWの車とか機械、こういう工業製品を輸出したいのです、どんどん輸出したいのです。安くすると物を売りやすいですから何とかユーロを安くしたいのです。だから、そのためにいろんなことをやるのです。米国と欧州がお互いに通貨を安くしたいと喧嘩しているのです。

### ■相場をめぐる戦いの中、何もしない日本

ヨーロッパも自分達の通貨を安くするために変なことをやるのです。この間ギリシャが国家破綻するかもしれないという報道がありました、ヨーロッパで国家破綻が始まった「ユーロが大変だ、売れ！」となるとユーロが安くなります。そうすると欧州製の車が安く売れるのですから都合がいいわけです。このように自分たちの通貨を安くしようという連中が戦っているのが今の為替市場の構図なのです。それに対して何もしないのは誰でしょうか？・・・何もしないのは日本です。ですから日本だけ円高なのです。しばらくこれは続くので海外旅行するなら今がいいでしょう。

今の円高現象は日本が認められたからとか、日本に価値があるから円高になっているというわけではなく、アメリカとヨーロッパがお互いの貨幣を安くしようと競争しているから、結果的に日本が円高になっているだけなのです。だから円が高いうちにアメリカやヨーロッパのいい製品を買っておくとか、海外旅行に行くとか、円高を利用して人生を楽しむのがいいのではないかと思えます。

追伸

「儲けたい儲けたい」という相談が多いですが、では儲からない人とは一体どういう人なのでしょうか？

■儲からない人とはどんな人か？

まず、自分の考えを変えたくない人です。こういう人は儲かりません。「自分の考えどおりにやって商売がうまくいった」なんてことはまずありません。どんどん現実に合わせていくことです。現実に合わせて、お客さんに合わせて変えていくことです。それができなければ儲かりません、ところが自分の考えを変えたくないという人も多いです。ですからそういう人には、アドバイスをして無駄なのです。

■自分の考えを変えたくない人、IPO会社を倒産させた経営者の事例

ではどんな人が、自分の考えを変えたくない人なのでしょう？

私の知っている限り、東大出身、一流会社出身、のように社会的評価の高かった人がそうです。逆

に自分の考えを変えられる人とは体育会系の人です。こういう人は否定されてきているからです。

例えば今から十年位前ですが、当時IPOが大流行していました。楽天などが上場した頃のことです。ある野村證券の部長をやっていた人が独立して、IPOのコンサルタント会社をつくっていました。当時社員を何十人か抱え、本も出していて業界では有名な人だったらしいのですが、その人の会社が去年倒産しました。その人とは十年前くらいから付き合っていますが、実は、出会った当時から「何か変だな？」という感覚がありました。

何か変だなというのは、IPOというのは株式公開の手伝いをするのが仕事ですが、これは「株式を公開するまでは責任を持ってやりますよ」という仕事なのです。裏を返せば「公開した後は逃げますよ」というのが、彼と付き合ってみて受けた感覚でした。私（天野氏）には「株式は公開した後の方が大事なのに」という思いがありました。

### ■証券会社、業界の無責任な常識

実際の株価の動きをみるとわかるのですが、株はだいたい公開した瞬間にガアアッと一気に上がって、あるところからカクンと下がり始め、後は下がりっぱなしというのがほとんどです。この下がった期間をいかにして上昇させていくかが非常に難しく、企業にとって一番苦しいところなのです。下

がる時期のほうが長く続くからです。

ところが野村證券とか一流の証券会社では、「株式は公開するところまでが証券会社の役割ですよ。公開したあとは逃げなさい」というのが常識らしいのです。それが業界の常識なのです。その野村證券の元部長も「だから私もそのとおりに会社を運営しています」と自信を持って言っていたのです。

この話を証券業務に関しては素人の私が聞いて「一番苦しいところは知らん顔なの？」と、業界外の人間としては当たり前の反応をしたのですが、その反応をみて、その元部長から「あなたは常識を知らないんですね」というふうに言われました。

### ■「自分の常識」は通用しない

はじめに紹介した商売の第一法則の「ユーザーの視点」からすると、「証券会社はおいしいところだけを食って逃げるんだな。一番苦しいところは知らん顔なんだな」という感覚を受けるのです。

その元部長にとっては証券会社の常識かもしれないですが、それは「自分の常識」です。それを変えたくないから、起業してからずっとそういう方針でビジネスをやってきたのです。

ところがリーマンショック以降、株価が一斉に下がってしまい、どの会社も苦しくなってしまうました。新規のIPOの仕事も無くなってしまうました。その元部長の会社は、今まで付き合いのあっ

た企業には、株を公開した後は知らん顔をしてきたために「こんな会社あてにできるものか」と思われていたのです。だから景気が悪くなってくると誰も寄って来なくなりまして。そして倒産してしまいました。付き合いのあった会社を回ってみても、「今さら頭を下げに来ても・・・」と誰も相手にしないのです。

### ■証券会社の常識を許さなかった地球の主

この人が東大出身でした。そして野村證券出身です。これが有名だった人の常識です。この人は自分の考えを変えたくないのです。ド素人の私が「証券会社ってずるい奴なんですね」と言ったら、「あなたの常識が間違っている」と言われました。確かに私の感覚は証券会社的には間違っているでしょう。でもこのことを地球の神は許さなかったのです。地球の主が証券会社の食い逃げを許さないと断っているのです。

### ■お金にも気持ちがある

つまり、儲からない人は人間性がよくないのです。嫌な奴なのです。こういう嫌な奴だから儲からないのです。お金だって気持ちがあるのです。嫌な奴のところには寄っていきたくない、この人のと

ころに行けばきちんと使ってくれると思えるところに行くのです。おいしいところだけを食って逃げような奴のところには寄っていかないのです。だから嫌な奴ではなく、お金から見て「寄っていきたくない」と感じる人間性を持てばいいのです。

### ■IPO会社の社長、倒産後どうなった？

ちなみに彼は会社の倒産後、今同じようなパターンで外国人とつるんでコンサルタント会社を海外につくっているようです。以前は資本金を十億円くらい何人からから集めてつくったみたいですが、今までの十年間の素晴らしい実績があるので（皮肉）今回は資本金がほとんど無しです。

いろんなことをやっているようですが、はつきりいってお客さんはつきません。会社とか、名刺の看板をみると今流行りの○○ビジネスコンサルタントとなっています。しかし考え方を変えないと、この人は何をやっても儲かりません。

### ■「運をよくしたい」という質問に回答する

最後になりますが、運をよくしたい、つまり自分を変えたいという相談について解説します。

「運をよくしたい」とは、誰でも皆そう思っています。「運をよくしたいがそうならない」というが

相談事です。私のところに来る相談事です。

「運をよくしたいけどよくならない」「これが何故か」と、自分が変わってないからです。「今のままの自分で運がよくなりませんか？」という相談では駄目なのです。運をよくしたいのなら、今の自分を変えなければいけないのです。

### ■運をよくし、考え方を変えるのに最も邪魔をする「執着心」

それでは何を変える必要があるかというところ、考え方を変えないといけません。そして、これを変えるときに一番邪魔になるのが執着心です。こうやって説明すると言葉遊びみたいになってしまうのですが、執着心を無くして考え方を変えるということは、非常に難しいことなのです。

### ■「執着心」が開運をさまたげる事例、ある会社経営者の場合

例えば、フォーチュンソフト社のお客さんで、ある立派な会社の経営者がいます。非常に分析する能力に関して優れている方がいます。緻密な分析が得意な人で、ここまでやるかなというくらい細かい運命学を使って人の才能を分析しています。ちなみに、彼は日干が丙なのですが、そういうところは日干が丙の人の特徴がよくでています。丙を命式に持っている、ある他の占い師も、ものすごく理

屈理論分析に執着しています。

### ■「トラブルや問題の発生は、執着心を捨てるサイン」

それでうまくいっている間はいいのですが、ところがずっと分析分析できて、会社がうまくまわらなくなってくると、自分の健康が優れないとか、どうも社員の調子がよくないというときは、そろそろ分析をやめてみる必要があります。分析という執着心から、そろそろ外れて何かを変えなければいけないときなのです。

丙だから仕方ないという人もいますが、実際十干は月柱や年柱にもあるわけです。生まれた時間も分かれれば時柱にもあります。四つ干があれば「丙でなければならぬ」ということでもないのです。残り三つ持っているのですから、それを使えばいいのです。

### ■「執着心」が開運をさまたげる、親への恨みを持つ人の場合

別のあるお客さんは、生まれたときの家庭環境がものすごく影響していました。四十歳になっても、五十歳になっても引きずっていました。その人は子供の頃に里子に出されて、何年も親の顔を知らな

いで過ごしてきたらしいのです。そのため親に対する恨みみたいなものが残っているのです。恨みという心があると、恨みという色眼鏡で全ての現実をみるようになってしまふのです。そうなっています。

全ての現実が、恨みという色眼鏡を通してでしか心に入っていないのです。だからどんな人を見ても疑います。「この人ときあうことで何を得するだろう？」とか、損得でみるような心の動き方ができないのです。

ですから当然仕事をして、能力はあるけど人間関係でうまくいきません。だまされたりだましたりという繰り返しも多いです。これは、恨みという色眼鏡でしか世の中が見えないので現実がみえないからです。何かの出来事が、恨みと言う色眼鏡を通して認識されるときには、実際の現実とは変わったものになっているのです。恨みも執着心の一つですから、恨みを溶かさないといけません。

### ■恨みを持って生きてしまった自分を許すことが重要

親に対する執着心を溶かすのは無理ですから、恨みを持って何十年も生きてしまった情けない自分を許すのです。相手のことは放っておけばいいのです。なぜなら大抵の場合、親は何も思っていない。

子供を里子に出すくらいは親ですから、親は何も思っていないのです。子供がそんなトラウマを抱えていようと何も思っていないです。

### ■「どんな出来事にも」どう反応するか」が開運の鍵となる

そうではなく、親がどんなへんちくりんだらうと、残酷な親だらうと関係ないのです。あなたを捨てようと関係ないのです。そういった事実をどのように心で反応するかが大事なのです。反応はあなたの責任ですから、反応はあなたの責任なのです。あなたを捨てたというのは事実ですが、それに対する反応はあなたの責任なのです。許せないというなら許せない自分を許しましょう。許さないといつまでも恨みが溶けないです。

それが溶けない限り、全ての現実を恨みという色眼鏡でしか発想できませんから、必ず不幸になるのです。そしてフォーチュンソフト社に相談に来る人は、ほぼ100%これに近い色眼鏡を皆さん持っています。占いのなものに関心を持ってしまった人は大体こういうものをもっています。そういうものを溶かしてしまった人は、はつきりいつて占いに関心がないのです。

ですから開運しようと思うなら、いい人生を送りたいのであれば、自分の持っている色眼鏡を溶かすことです。必ず持っています。その執着心を溶かすことが、運をよくする秘訣なのです。これを一

一番最後に、皆さんにお願いしたいと思います。

# 付録

## 「みどりのタヌキの物語り」

むかしむかし、あるところに、緑がかった毛並みのタヌキが住んでいました。とても優柔不断な性格で、ジュース一本買うのにも

「今日は暑いからポカリスエットにしよう。でも本当はイチゴ練乳ドリンクが飲みたいんだけど『あの人男のくせに』とか言われると嫌だし、・・・だけど健康のことを考えたらやっぱりミネラル麦茶かな」とグダグダ時間をかけて迷うのが常でした。

一時が万事こんな感じでしたが、性格は温和でまじめ、親の言うことは正しい、学校の先生は正しい、国は正しい。交通ルールは必ず守る、といった様子でした。

ただ、自分の人生に苦痛と違和感をとても感じていました。

「努力しているのに幸せにならない……、何が悪いんだろう……？」

なんとか脱出したい。

そう思い「どんな願いでも叶う」という魔法の本があると聞くと、それを買ってきて読む。「錬金術の秘密」というすごい本があると聞けば、それを手に入れてみる。密教、カバラなど……いろいろなノウハウを手に入れていましたが、生活は一向に変わりませんでした。

「どうしてだろう？」

そう思いながらも、変わりばえしない生活が数年が続き、あるとき海の方の国に、馬に乗った伝説の占術家がいることを知りました。

「会ってみたいな、この人なら『ずばり君は○○をすれば成功するでしょう』とハッキリ指摘してくれるだろう」と期待しました。

そう思うとタヌキは、いてもたってもいられなくなり、冒険の旅にでかけました。

嵐の海を越え、灼熱の砂漠を横断して、その伝説の占術師の噂を聞きつけては、居所を探し続けました。

そしてついに、ある街に伝説の占術師が、今滞在していることを知りました。そして、その伝説の占術師に会うことができたのです。

「私はあなたを探してきました。私は何をすれば開運するのかわからないので、それを教えていただきたいのです」

しばらくの沈黙のあと、馬に乗った伝説の占術師は、タヌキをじっと見ながら口を開いた。

「君のその質問自体が運が悪いんだ！」

「……！！！！？」 タヌキには、その言葉が何のことだか意味がわかりませんでした。

一瞬「エッ？」と脳が停止し、その後、黙りこんでしまいました。

「私の言ったことがわからないようだね。……だから君は不幸なんだ」

しばらくの沈黙の後、タヌキが口を開きました。

「こんな私でも開運できるでしょうか？」

「そんなことはわからない。地球上の誰にもわからない。宇宙中を探しても分かる人はいない。とりあえず私の本を五十回は読みなさい」

「先生、私は先生の本をもう百回読みました。それでこの有様です。私は遠い国からやってきました。そう簡単に帰ることもできません。このまま私を弟子にしていただけませんか」

「私は弟子はとらない。．．．しかし丁度、山の上の牧場の世話係りが辞め

てしまっている。牧場の世話係りとして手伝いたいのなら、気の済むまでいいだろう」

「あっ、ありがとうございますー！」

こうしてタヌキは伝説の占術師の牧場で働くことになったのです。

ところが伝説の占術師は、毎日気ままに旅から旅で、ほとんど屋敷にはいませんん。

タヌキも牧場の仕事が忙しいので、占術師と顔を合わせることありませんでした。

しかし、たまにあつて一緒に牧場の草を刈ったり、食事をしたりと、何気ない瞬間に、タヌキは今まで聞いたこともないような話をポロリポロリと聞くことができるのでした。

奇法とは・・・。

魂の快とは・・・。

二分思考の恐ろしさとは・・・。

いい男とは、いい女とは・・・。

国とは、世界とは、経済とは……。

男女のまぐわいとは……。

そんな生活が数年続いた、いつもと変わらないある朝のことでした。

いつも真っ先に起きているタヌキの姿がないので、伝説の占術師は、タヌキの寝ている部屋へ起こしに行きました。

「おいーいつまで寝てるんだー！」

すると、そこにはタヌキの姿はなく、ベッドの上に封筒に入った手紙が置いてあるだけでした。

手紙にはこう書いてありました。

伝説の占術師さま

私は、自分で感じることに、考えることに、決断することに、そして勇氣に従って行動することが最も大切だとわかりました。

昔は、全ての答えが自分の外側にあると思っていました。しかし、それが大きな間違いだったようです。

私は私の人生をみつける旅に出ることにしました。

長い間、ありがとうございます。

タヌキ

そのころタヌキは、山の上の牧場から降りて、ふもとの街をトコトコ歩いていました。

よく晴れた日だったので、のどが渴いてきました。

お店があったので、数ある飲み物の中から一見して瞬間判断して「練乳いちごミルク」を買い、片手に飲みながら「うめく！」と大きな声で叫んでいました。

こうして緑のタヌキは開運の第一歩を踏み出しました。

おわりに



## おわりに

「運命学奇法大全」最後まで読んでいただきまして、ありがとうございます。

占い、カウンセリング、歴史、宗教、恋愛、金融、相場・・・など、盛りだくさんの内容で頭から煙がでてきて、消化不良を起こしている方も多いと思います。

最後の「みどりのタヌキの物語」ですが、これは「新版奇法大全」によって多くの情報を頭にインプットしたにも関わらず「すごい情報を知ってしまった。ただ・・・明日から何をすればいいの？」となってしまう方もいらっしゃるのではないかと思いい「付録」として書かせていただきました。

この本を含め、フォーチュンソフト社のソフトフェア、本、DVD、セミナーなどは一貫して「占いに関心を持った人が開運するには？」という動機と発想が製品に込められているように思います。

というのも、今あなたは「占いに関心を持っしまいました」この本を手にとっているわけですが、実は「占いに関心を持っしまいました」ということは、あなたの人生から、あるメッセージが発信されているの

と同じなのです。

では一体、それはどんなメッセージなのでしょう？

それは・・・「あなたの人生は、さえない方向へ向かいかけてますよ」という警告です。

「えっ！、そんなことないでしょ」と思う方もいらっしゃると思います。もちろん例外もあると思います。あなたが億万長者であったり、上場企業の経営者、国会議員、あるいは「毎日幸せでたまらない」「生まれてきて感謝千%よ」と言う人でしたら該当しないでしょう。ところが、そうでない人も多いのではないのでしょうか。

それに対してフォーチュンソフト社の製品の結論は「不幸な生活から『さよなら』したければ、自分を変えるしかない」と言っています。今回の奇法大全では「脳を移植するしかない」という強烈な表現までありました。

しかし、実際に脳を移植して「はい、これで明日から開運しますよ」というわけにもいきません。

おわりに

それでは一体、自分を変えるために何をすればいいのでしょうか？

今回の書籍を隅から隅まで読んでいた方は既に既におわかりかもしれませんが、結局、不幸な人とは「自分の魂の声を無視して生きてきた人」だと言えます。そして結果「魂の声からなくなっている人」のことなのです。

天野雲海氏の解説は天才的などころがありますので、普通の人が、その内容を実感するのに時間がかかることも多いものです。そこで、この魂の声が聞こえない重症患者でもあった、わたくし凡人有川が日々の生活に落とし込むために、実践できることを紹介させていただきます。とりあえずのアプローチとして以下の二つの側面があります。

①魂の声への感度を高める。

②魂との間にあるゴミをどける。

はじめに、魂の声への感度を高めるためにできることをご紹介します。

- ・「やりたい」と思ったことはやってみる。
- ・「やりたい」と前々から思っていたことをやってみる。
- ・好きだった場所に行く。
- ・子供のときに感動したり面白かった本、映画、漫画を見直してみる。
- ・流行っている場所に行ってみる。
- ・やりたくないことはやらない。
- ・大好きなものを食べる。
- ・好きな異性をデートに誘ってみる。
- ・自分の心がウキウキするものを探す。
- ・自分の心がワクワクするものを確認する。
- ・居てもたってもいられないことを探す。
- ・思いっきりおしゃれしておでかけしてみる・・・などなど

こういうことを行動に移すことで、魂の願いへのアンテナが立ってくるはずですが、そして「やってみたい」という感情が湧いてきたら、法律に引っかかるようなものを除いて、とりあえず実行してみよう。そして結果を検証する。このサイクルによって人生が変わっていくように思います。

続いて二つ目のアプローチ。

魂との間にあるの「ごみ」を除去する作業です。

これを実践するために、子供が転んで泣いたときに使う「痛い痛い飛んでいけ」と同じ手法を使います。手順は以下のとおりです。

- ①自分の心に湧いてきている感情を認めます。
- ②「この感情を認めることができますか?」「はい」と自問自答する。
- ③「この感情を手放すことができますか?」「はい」と自問自答する。
- ④「この感情を手放せますか?」「はい」と自問自答する。
- ⑤「いつですか?」「今」と自問自答する。
- ⑥感情が薄まるか、無くなった感覚があるまで①から⑤を繰り返す。

単純な作業ですが、意外と効果があります。何か変化があった方は、ぜひ「あとづけ」のメールアドレスまでお知らせ下さい。楽しみにお待ちしております。

こういった内容を占いと組み合わせると実生活に使っていくことで、あなたの生活が開運していくはずですよ。

二〇二二年（壬辰）新春

新版  
作成プロジェクト  
代表 有川馬鯉

---

発行責任者 有川馬鯉  
(古い開運塾 代表)

落丁本・乱丁本・印刷ミスの本は、ご連絡下さい。  
送料当方（有川）負担でお取替えます。

連絡先

【e-mail】 [kawasaki-unmei@mbr.nifty.com](mailto:kawasaki-unmei@mbr.nifty.com)

【電話・FAX】 044-271-6206

---